

## 活動報告：ミュージックチャイルド

### 1. 「ミュージックチャイルド」について

広島文化学園大学・短期大学 子ども・子育て支援センターでは、平成22年度より特別な支援を要する幼児・小学生を対象とした音楽療法「ミュージックチャイルド」を、非常勤講師とともにやってきた。23年度から「音楽療法実習Ⅰ」の実習先として、音楽学科の2年生（音楽療法士資格取得希望者）「音楽療法実習Ⅰ」履修学生が、非常勤講師の行う音楽療法セッションを見学している。また、27年度からは、音楽療法を受けたい児童を積極的に受け入れているが、その時の助手を、音楽療法資格取得希望者に任せ、本格的な学外実習施設として機能している。

「ミュージックチャイルド」の目的は、音楽をツールとし、意図的・計画的に子どもの発達を支援することである。対象児の行動の変容や発達を促進するとともに、対象児の表現力の向上により、特に保護者が子どもの変化を喜び、より望ましい親子の愛着形成が成果として見られている。

### 2. 28年度の実践報告

「ミュージックチャイルド」で行う音楽療法は、インテーク面接をはじめとする、アセスメント、目標設定、実施計画の作成、セッション、保護者とのカンファレンスの流れで実施された。27年度は、小坂靖代非常勤講師が主な担当者となり、和田玲子講師が助手を務め、対象児と関わった。また、セッションによっては、音楽療法士の資格取得希望者の中から、児童領域により熱心な学生を助手とした。

セッションの実施回数は、対象児童A君：前期3回、後期5回、対象児童B君：前期3回、後期5回、月別の実施回数は6月1回、7月1回、8月1回、9月1回、10月1回、11月1回、2月1回、3月1回であった。

対象児童の年齢は、7歳2名、男児。

それぞれの対象児が抱える問題は、肢体不自由、自閉症であった。

### 3. 指導者の立場より

今年度は、卒業生を児童領域の音楽療法士に育

て上げるために、本学の非常勤講師である、小坂靖代先生と、本学の卒業生で音楽療法士として活躍中の大川千尋先生にミュージックチャイルドでのセッションをお願いして、筆者はセッションのプロデュース役に徹した。音楽を通しての、対象児、その保護者と関わりながら、私たち講師陣も毎回、子どもとたちとどうか変われば良いのか、試行錯誤での連続だった。最初は、ここは自分にとって安全な場所かどうかを見極めるために、固い表情の対象児たちが、音楽を通してどんどん心を開き、自己を表出できるようになっていく様子は、感動的で、実は私たちが、対象児から育てられている貴重な時間であったと思う。学校行事や対象児たちの体調などの条件から、コンスタントにセッションが展開されなかった月もあったが、体調が少し悪い中でも、セッションに足を運んでいただくと、保護者が驚かれるくらい積極的に講師と関わる場面もみられ、音楽の可能性を再認識することが多く見られた。今後も、ミュージックチャイルドで実施する音楽療法の実践を通して、本校が児童領域の音楽療法の拠点となるべく、幅広く展開していきたいと考えている。

### 4. 改善点と将来構想

28年度はミュージックチャイルドが軌道に乗って2年目の年となった。また、講師には、非常勤講師の音楽療法士と、本学卒業生で、音楽療法をもっと勉強したいという意思をもった先生にお願いし、セッションの組み立て方や対象児とのかわり方など、様々な問題点を考慮しながら慎重に進めていただいた。その結果、それぞれのセッションで音楽療法の効果を実証することができたと思われた。また、先生方が、毎回細かくセッションを振り返って、次のセッションを進めたことで、本学卒業生の大川先生は、児童領域の音楽療法士としてしっかり学び、力をつけた結果となった。

今後も引き続き多くの対象児と、より丁寧なセッションを展開していきながら、一人でも多くの勉強熱心な音楽療法士が育つ場所となることを望んでいる。

(文責：学芸学部 音楽学科 和田 玲子)